

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	秋田市立御所野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学校	計	教員数
学級数	4	4	4	3	4	3	1	23	32
児童数	102	109	123	111	147	119	3	714	

研究の概要

1 研究主題

自ら学び，共に高め合う子供の育成 - 個を生かした学習指導の展開を通して -

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～6年 国語
すべての学習のもとになる言語の理解を図るため。
これまでの研究と子どもの実態から，全学年で共通して研究に取り組むため。
- ・ 1～6年 算数
子どもの理解の状況に差が出やすい教科であり，学校として研究実績があるため。
- ・ 5～6年 理科
教師の専門性を生かして専科制を行うため。

(2) 年次ごとの計画

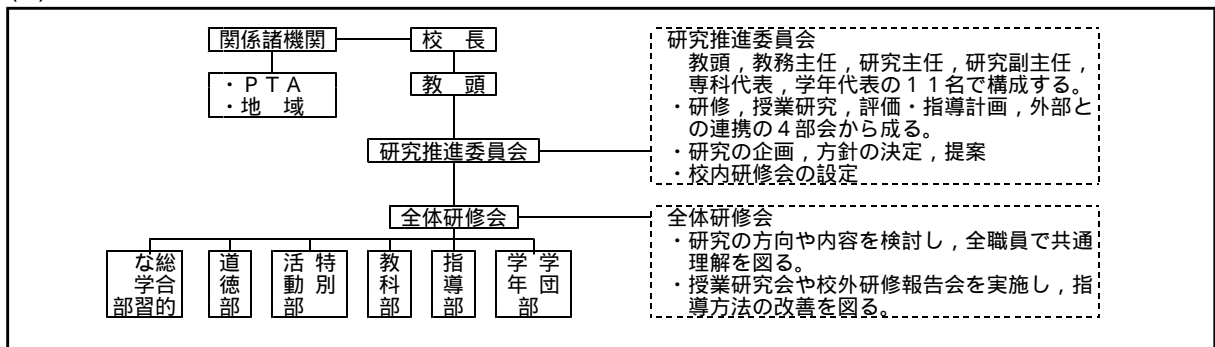
平成14年度	<p>テーマ 自ら学び，共に高め合う子供の育成 - 個を生かした学習指導の展開を通して -</p> <p>仮説 個に応じたきめ細かな指導を充実し，学び合う場を工夫することにより，基礎・基本の確実な定着が図られ，自ら学び，共に高め合う子どもが育成されるのではないか。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの思いや願いを生かした単元構成の工夫 ・ TTや教科担任制・専科制などによる指導体制の充実 ・ 子どもの多様性に対応する学習形態の工夫 <p>2 学び合う場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師と子ども，子ども相互の信頼関係づくり ・ よりよい話し合いができる学習過程・発問などの工夫 ・ 学習に臨む態度・話し方・聞き方など，望ましい学習習慣の定着 <p>3 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な評価計画に基づく指導と評価の一体化 <p>【1年次】・研究計画の立案<研究の全体構成> ・授業実践 ・実態調査 ・先進校視察 ・1年次のまとめ</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び，共に高め合う子供の育成 - 個を生かした学習指導の展開を通して -</p> <p>研究の見直し（仮説） 個に応じたきめ細かな指導を充実し，学び合う場を工夫することにより，基礎・基</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 15 年度	<p>本の確実な定着が図られ、自ら学び、共に高め合う子どもが育成されるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T T , 少人数指導の一層の活用（ねらいに合わせた指導体制の工夫） ・ 学び合う場の工夫の具体的な手立てと実践の集積 ・ 評価規準の見直し <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた指導 単元構成の工夫 指導体制の工夫 学習形態の工夫 問題解決的な学習や体験的な学習の設定 さわやか学習（朝の活動） 2 学び合う場の工夫 教師と子ども、子ども相互の信頼関係の構築 教材・学習過程の工夫 効果的な発問・助言、話し合いの形態等の工夫 話すこと・聞くことに関する指導 望ましい学習習慣の定着 3 評価 指導と評価の一体化 年間指導計画・評価規準の改善 指導と子どもの変容 <p>【2年次】・研究計画の改善 ・授業実践 ・実態調査 ・先進校視察 ・授業の公開 ・2年次のまとめ</p>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 16 年度	<p>テーマ 平成15年度に同じ 仮説 平成15年度に同じ 研究内容・方法 1 個に応じた指導 2 学び合う場の工夫 3 評価 【3年次】・研究計画の確認 ・授業実践 ・実態調査 ・研究の公開 ・研究のまとめ</p>
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

本校では、「学習意欲」を土台に、「個に応じた指導」「学び合う場の工夫」「評価」の3つを研究の柱として実践を行っている。これらは相互に関連し合いながら進められており、学習意欲を高め、個々の学習を実りあるものにするために、「分かる、楽しい、自分らしい」学習を目指して、以下のような取り組みを行ってきた。様々な指導の工夫をして、学習することの意義を感じ取らせながら、時には、学習することの大切さを話しながら、確かな学力の定着を図ってきた。

1 個に応じた指導

(1) T T , 少人数指導を生かした指導

子どもの学習状況や学習内容、ねらいに応じたT T の活用

子どもの学習状況や学習内容に応じて、1 C 2 Tの指導を工夫した。同じ教室内で2名の教師が役割交代しながら指導したり、1単位時間の中で部分的に2つのグループに分かれたり、はじめから2つの教室に分かれてそれぞれを担当したりするなど、柔軟な指導体制を心掛けた。学習集団の編成は、習熟度や興味・関心によるものの他、単純に分割する方法も取り入れた。

また、同じような学習活動であっても、ねらいによって全体での指導と少人数指導とを使い分けて取り入れた。例えば、考えを練り合う場面で、意見の多様性に重点を置く場合は全体で、個々の意見を十分引き出すことを意図する場合は少人数でと、T Tや少人数指導を生かして学習形態を変えることにより、子どものもつ力をさまざまな面から伸ばすことができた。

専門性を生かした理科の専科制

理科を得意とする教師を理科の専科担当とし、担任とのT Tを行うことで手厚い指導ができるようにした。専門性を生かして、興味・関心を引き出す導入の工夫や、観察・実験を充実させることによる思考力の育成などに力を入れてきた。また、担任との連携により、その子どもの特性を生かした学習や指導を行うことができた。

習熟度や興味・関心、学習スタイルなどに応じた多様なコース別学習

その単元で付けたい力や学習の習熟度などにより、多様にコース別学習を設定した。計算などのスキルで習熟を図るもの、思考や話し合いなどの質的な深まりを図るもの、体験的な活動など、コースの内容を工夫してきた。子どもの自己選択を大事にすることで、選択したコースの学習に前向きに取り組む姿が多く見られ、学習への意欲が高まるとともに、学習の定着や深まりにも効果があった。また、学級数を超えるT Tを活用することでコースの種類も増え、子どもの選択の幅を広げることができた。

(2) 単元構成の工夫

体験的な学習の設定

体験的な学習を効果的に単元の中に位置付けることに配慮した。単元の導入部分の活動では、意欲や関心を高めることで学習への動機付けを図った。課題解決の場面では、作業的、操作的な活動で思考を深めたり、考え方を説明する際に、子どもが実際に操作しながら話す活動なども取り入れた。また、学習したことを実際に活用することで、楽しく体感しながら理解を深められるようにしてきた。

本校が実施した「学習意欲に関する調査」(後述)からは、体験的な学習が楽しい、と感じている子どもが特に多いことから、意欲や関心を高めることに効果を上げているものととらえている。また、学習後の評価では、思考・判断や技能・表現の能力の確実な定着も見られた。

学習が日常の生活に役立つような問題場面の設定

子どもが生活から見付けた題材を問題として取り上げたり、学習したことを身の回りから探すような課題を設けたりすることで、学習と生活を結び付ける視点から単元構成をするように心掛けた。学習したことが実際の生活や次の学習に役立つことで、学習が生活へ応用される場面が増え、興味・関心を広げることができた。また、そこから得られた気付きから、さらに学習を深める様子が見られた。「学習意欲に関する調査」からは、算数と生活との関係を肯定的にとらえている子どもが非常に多いことが明らかになっている。

「学習状況調査」(秋田県教育委員会)

全県平均に対する通過率を昨年度と今年度で比較すると、
算数『H14: 4年 - 1.0%, 5年 + 2.3% H15: 5年 + 0.9%, 6年 + 8.0%』
理科『H14: 4年 - 8.6%, 5年 + 0.5% H15: 5年 + 1.9%, 6年 + 2.4%』
と伸びが見られた。

2 学び合う場の工夫

(1) 「確かな自分の考えをもつこと」に関する指導

子どもどうしの学び合いを深めるため、その前提となる「確かな自分の考えをもつこと」ができるように、それぞれの子どもの実態を踏まえた個への指導を行ってきた。まず、考える時間を保障することを大事にし、自分で十分に考えることができるようにするとともに、学習の手引きをもとに助言したり、子どもの学習状況に応じてヒントカードを示したりするなど、個々への手立てを取ってきた。考えの拠り所となる具体的な活動なども、操作的な活動から体験的な活動まで含めて大事にしてきた。また、個々の考えを丁寧に見取ることができるよう少人数指導を行ったり、学習集団の実態により課題を異なるものにした。この結果、自分の考えをもつことで、集団全体での学習に自信をもって前向きに取り組むようになっていく。

(2) 「話し合い」に関する指導

集団としての学習を高めるために、「話し合い」に関する指導は、個に対するものと集団に対するものの両面から行ってきた。

個に対する指導としては、自分の立場を明らかにし、自分の意図が相手に伝わるように話すなどの発表の仕方や話型、相手意識をもち、話し手を見てうなずきながら聞くなどの聞き方や、話の内容を聞き取るポイントなどについて、丁寧に指導するように心掛けた。これらのことを全教師が共通理解して取り組むことができるように、「確かな学びを目指して」という冊子を作成し活用している。

集団に対する指導としては、まず、自ら考えて話し合いたいと思うような、話し合う必然性のある課題を設け、目的意識をもたせることができるような話し合いの場を工夫してきた。話し合いの形態は、小さなグループから大きな集団へと段階的に変化させたり、課題別にしたりするなど、目的に応じて多様に編成した。場合によってはフリートークングを取り入れ、話すことに慣れたり、話し易い雰囲気をつくったりすることも心掛けた。子どもたちは安心して発言できる場で、自分の意見に自信をもち積極的に話し合いに参加するようになった。また、話すことや聞くこと、小黒板やカードなどの教具も活用しながら考えを集約する方法、話し合いの仕方などについての指導を繰り返してきたことで、意見の出し方やまとめ方が身に付いてきている。

このような指導により、自分の考えを発表するだけでなく、お互いに考えを練り合う学習を楽しみにして取り組めるようになってきた。「学習意欲に関する調査」では、算数の時間に解き方をみんなで話し合うことが楽しいと考えている子どもが、特に高学年で多かった。

3 評価

(1) 評価規準、具体的評価規準の活用

評価規準をもとに、「十分満足できる（A）」「おおむね満足できる（B）」のそれぞれの学習状況について検討し、具体的評価規準を作成して指導に当たった。これにより、子どもを見取る視点や「Bに達していない子どもへの手立て」が明確になり、子どもの学習状況に素早く対応できた。同時に、各時間内で行う評価の項目を焦点化したことは、教師がその時間のねらいを常に意識しながら指導することや、子どもにはっきりとしためあてをもたせることにつながった。また、知識や技能など量で表されるものとは異なり、数値ではとらえにくい思考面について、教師が子どもの姿や評価場面を具体的に思い描きながら指導することで、考え方を学習する際の学び方が子どもたちに身に付いてきた。

以上のような評価の工夫が、学習意欲の持続や学習内容の定着に結び付き、子どもの指導に生きる評価となった。また、実際に授業の中で生かし、継続できる評価を行えるようになることで、「日常的に、一歩頑張ればよりよく子どもを見取ることができるようになる」という意識が教師に生まれた。

(2) チェック表等の活用

毎時間の評価をチェック表にまとめることは、配慮を要する子どもや単元を通した子どもの変容の把握に役立った。また、活動状況の主な姿を書き足していくことで、ねらいを達成できていると思われる子どものよさの特徴をとらえたり、十分に見取れていない子どもの姿を意識しながら記入したりすることができた。さらに、TTでの評価により、教師一人では見えない子どもの姿が明らかになった。このように積み重ねられた評価は、次時の指導や、補充的・発展的な学習のコース内容の設定に効果的に用いることができた。個別指導に配慮したり、つまずきに対応するための工夫を十分に行ったりすることで、子どもたちが積極的に、安心して学習に向かう姿が見られた。

(3) 自己評価の工夫

振り返りカードの活用

子どもの自己評価能力を高めたり、子ども自身が感じている理解度や達成度、興味・関心、学習意欲などをとらえたりするために、振り返りカードを中心に自己評価を行っている。評価の観点を示すとともに、自由記述も併用し、その具体的な内容をつかむようにしている。自己評価を継続することで、子どもたちは次第に学習のまとめや気付きなど、短時間で深まりのある内容を書くことができるようになってきた。また、できたこと、分かったことなどを振り返って肯定的に確認することが、学習意欲を高めることにもなり、さらには、他の子どものよさも取り入れようとする態度も見られようになった。子どもたちは、教師の温かいコメントを励みにしている。

コース別学習での自己選択

事前のテストや学習の手引きなどをもとに自己評価して子どもがコースを選択する学習を昨年度から継続してきた。また、コース選択の機会を増やし、それが自分のためになったと思えるような経験や意識付けを図ってきた。これらにより適切なコースを自己選択して学習を進めるなど、信頼性のある自己評価のできる子どもが増えてきている。

2 今後の課題

(1) 個に応じた指導

単元構成や学習形態の工夫

子どもの学習状況に応じて、きめ細かな指導が行われるように、自己選択場面のある単元構成や、TT、少人数指導などの効果的な活用に努めてきた。子どもの多様性に対応できるように習熟度や興味・関心などに学習スタイルも加味した学習形態を工夫していきたい。

その子どもの学びのスタイルに合わせた「個に応じた指導」

学習活動の様子を観察していると、個々の子どもに特徴的に見られる学びの進め方がある。課題を素早くつかんで進める子ども、友達と話し合うことで自分の考えを確かにする子ども、じっくり考えてから取り組む子どもなど、これらはそれぞれの学び方のスタイルである。学習状況の把握とともに学習の様子を見取りを重ね、その子どもの学びのスタイルに合った適切な個への指導を行うことを考えていきたい。

(2) 学び合う場の工夫

確かな自分の考えをもつための教材・学習過程の工夫

考えを練り合うために、その前提になる自分の考えをより確かなものにする工夫をしてきた。何よりも、子ども自身が「話し合いたい」と思うことが、学び合いの原動力となる。子ども自身が話し合う意義や必要性を感じ取ることができるよう、学習内容を、どう組織し、どう提示するか、そのための教材・学習過程の在り方について明らかにしたい。

効果的な発問・助言・指示等の工夫

子どもから出された意見を、「発表」から「話し合い」「練り合い」へ高めていくためには、教師の意図的で的確な発問や助言、指示などが欠かせない。教師の指導力が問われる場面でもある。目的に応じた話し合いを深めるために、これらを工夫し高めていくとともに、教師自身もさらに力を付けていく必要がある。

(3) 評価

評価規準の継続的検討

昨年度作成した評価規準を、今年度は指導を行いながら見直して改訂版を作成してきた。しかし、まだ不十分な部分があり、引き続き改善を加えていく必要がある。

自己評価

子どもの自己評価を大事にし、判断基準に沿って自己評価したり、感じたことをめあてに沿って自由に記述したりすることで、子ども自身が適正に学習を振り返り、達成感や次の活動への意欲をもつことができるように努めてきた。しかし、自己評価については、さらに工夫の余地がある。自己評価のねらいや、自己評価の方法、自己評価力を高めていくための指導の在り方などをより一層明らかにしていきたい。

学力把握のための学校としての取組

(1) 学習状況調査（秋田県教育委員会）

調査の目的

- ・学習指導要領の内容等の定着度を把握し、本校の実態や課題をよりの確にとらえることで、目標に準拠した評価の研究や授業の改善に生かして、指導方法の工夫改善を図る。

実施内容

- ・4, 5年の全児童：国語，算数，理科の3教科（前学年までの履修内容）
- ・6年の全児童：国語，社会，算数，理科の4教科（前学年までの履修内容）

実施時期 平成15年7月

(2) 基礎学力調査（秋田市教育委員会）

調査の目的

- ・学習指導要領に基づく基礎的・基本的な内容の定着を評価する調査を実施することにより、本校の子どもの学力に関する実態や問題点等を分析するための基礎資料とするとともに、学習指導改善・充実のための参考資料とする。

実施内容

- ・5年生の全児童：国語，社会，算数，理科の4教科（既習内容）

実施時期 平成15年11月

(3) 学習意欲に関する調査（秋田市立御所野小学校）

調査の目的

- ・学習に対する本校の子どもの意欲やその変化をとらえるため、14年度から継続的に調査を実施。特に今年度は、昨年度と比較することで全体の傾向や、指導による変化の様子の確認を行う。子どもの意識や希望を知ることによって、今後の学習指導の改善に役立てることを目的とする。

実施内容

- ・3～6年生の全児童：算数についての意識調査，学習についての意識調査

実施時期

- ・平成15年7月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 自主公開等

学習指導実践発表会（11月26日開催）

主として秋田市内の小学校を対象に、本校の学習指導の実際を公開する発表会を行った。本校の研究の3つの柱に沿って、学習場面や指導形態をそれぞれ変え、下記の内容で4学年が授業を提示した。授業後には、国語と算数の2分科会に分かれて協議を行った。学習指導の意図や単元の構成、評価の仕方などについて具体的に様々な質問や意見が出された。参加者は、90名近くであった。

- ・ 1年国語：「本はともだち」
4C4Tに保護者ボランティア7名を加えたコース別学習
（表現形式別）
- ・ 5年国語：「御所野っ子環境会議を開こう」
1C1Tでの指導（学級集団での学び合い）
1C2Tによる少人数指導（課題別）
- ・ 2年算数：「かけ算」4C5Tによるコース別学習（興味・関心別）
- ・ 4年算数：「面積」1C2Tによる少人数指導（習熟度別）

(2) フロンティアスクールどうしのネットワーク

中央地区学力向上フロンティアスクール（小学校）との授業研究会の交流

授業研究会に参加し合い、授業や指導の様子を参観したり、研究会で意見を交換したりした。互いの研究や取り組みを具体的に理解するとともに、自校の実践を検討する機会としている。

- 7月4日（金） 指導主事計画訪問（子吉小学校，出戸小学校参加）
- 9月10日（水） 校内授業研究会（子吉小学校参加）
- 11月26日（水） 学習指導実践発表会（出戸小学校，旭北小学校参加）

(3) フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動

学習評価研修会（8月18日）

各校の研究実践に資することをねらいに、秋田市内の小・中学校教諭を対象に、本校の研究と評価の方法を紹介した。評価規準に基づいた評価の実際の手順や、その成果や課題を示し、各校の実践を検討する際の参考にしていただいた。

(4) ホームページ

研究や実践の内容等をホームページで紹介（H16.3月更新予定）

（<http://www.edu.city.akita.akita.jp/~gsn-s/index.html>）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科 生活 音楽
 図画工作 家庭 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無